

でとうございます



賀正

「半島先端のまちづくりに力を合わせて」

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。
平成27年の新しい年を、町民の皆さんとともに元気で迎えられることを嬉しく思います。

町民の皆さんには、「健全財政の維持」と「行政サービス水準の維持」と「地域の活性化」という当町の3つの課題の克服と両立の私の願いに、これまでも増して議員の皆さんとともに耳を傾け、ご協力をいただいております。

そして、閉塞感漂う厳しい郷土を案じながらも、農業・漁業・商工観光業の振興に、生活環境の向上に、高齢者福祉や教育の振興に、また、新しい町おこしへの挑戦にと、町のどこかで、みんなで力を合わせ頑張っている多くの町民の皆さんの声や姿に身近に接し、ある時は町職員への多くの叱咤激励をいただき、本当に勇気づけられてまいりました。

そうした町民の皆さんの深いご理解と温かいご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、「自助」と「共助」と「公助」の連携による防災への備えをみんなで考え、その時の行動を町内各地区ごとに確かめ合う集会や訓練が行われました。

積丹町誕生60年を迎えようとしている今、改めて郷土の災害の歴史に学び、災害から尊い命を守る難しい課題の克服に、防災行政と地域や家庭が互いに力を合わせて取り組んでいか

なければなりません。

新しく迎えた平成27年は、第3次安倍内閣の下で、消費増税10%の平成29年4月実施を政権公約として、経済再生と、持続可能な社会保障制度の確立をめざす介護保険制度の見直しや年金制度改革、新たな子ども子育て支援対策など、国民生活に身近な改革のスタートが予定されています。

一方、そうした国政の変化が、小規模な地方自治体にとって難しい対応を迫られる中で、懸案の美国川河川改修事業の促進や町道のトンネル・橋梁等の改修、特別養護老人ホーム建設誘致の実現、水道・下水・温泉特別会計事業の改革論議など、数多くの当町の懸案課題の解決も急がれています。

そしてまた今、自己決定と自己責任という地方自治の基本理念の下、多くの可能性を秘めた半島先端の町の活力ある地方創成をめざして、住民と議会と行政が、官民あげての英知の結集が求められています。

私は、町民の皆さんがそれぞれの役割を担い、国や道、民間機関や積丹ファンの方々との信頼関係を大切にしながら、私たちの郷土の多くの課題の一つひとつの克服に弛まぬ努力をしてまいりたいと思います。

希望に輝く新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

2015年 新年おめ



迎春 「町民参画のまちづくり」

積丹町議会議長 佐藤盛男

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
町民の皆さまにおかれましては、穏やかな新春を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

また、皆さまには常日頃から町政、議会運営につきまして格別なご理解とご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。

昨年の状況を振り返りますと、日本列島各地で相次ぐ台風の上陸による大雨被害、広島県の土砂災害、更には御岳山の噴火により多くの尊い命が失われております。

11月22日には長野県北部を震源とする地震がありました。幸いにも最も被害の多い白馬村では村民の一致団結した素早い救出活動により一人の犠牲者も出すことがなく、今後の小規模町村の災害時においてのモデルケースになりうるような事例もあつたところであります。

一方、本町では7月、8月の大雨で施設の被害は多少ありましたが大きな被害もなく過ごせた年でありました。

さて、現在、地方自治体では、長引く景気の低迷や少子高齢化による人口の減少、国・地方を通じた厳しい財政状況、

都市と地方の格差の拡大、地域コミュニティの脆弱化などが著しく、住民どうしの絆を取り戻さなければならぬという危機感が高まってきているものの、必ずしも住民の自立意識や実際の地域活動への参画意欲に結びついているわけではなく、今まさに、まちづくりのあり方そのものが大きく問われております。

このような中、こうした厳しい環境を乗り越え、活力と魅力あるまちづくりを進めていくためには、時代を見据えた情報分析をしっかりと行い、行政と互いに知恵を出し合いながら町民参画の町政運営に取り組まなければならないと考えております。

新たな年を迎え、議会といたしましても、町民の生活はもとより、地域産業の発展、更には福祉や教育により一層、力を注ぎ安心してくらすことの出来る町づくりを推進していくことに、全力を尽くしてまいります。

どうかこれからも力強いご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。